

## あおなみ線マイスターあおなみ線ひろめ隊 活動視察

日時：平成27年2月20日（金）13時15分～15時30分

場所：笥家住宅（登録文化財）

### 【あおなみ線マイスターあおなみ線ひろめ隊について】

中川生涯学習センターの第1回あおなみ線マイスター養成講座を受講した有志により平成24年8月に設立した団体です。現地学習や座学などを通じて、あおなみ線の全駅を踏破し、あおなみ線マイスターとして沿線や周辺地域のガイドボランティアを目指します。沿線の歴史・文化・自然や産業などの学習を行ったり、あおなみ線の各駅を拠点として楽しい散策コースや見学コースなどを開発しています。

昨年8月には、ささしまライブ駅付近にあるJICAと愛知大学にて、「親子探検ツアー～JICA（国際協力機構）と愛知大学へ行ってみよう」を開催しました。

### 【活動の様子】

あおなみ線ささしまライブ駅からほど近い場所にある、国の登録有形文化財に登録されている

かけいけじゅうたくしゅおく

「笥家住宅主屋」を20名ほどの参加者とともに訪問する見学会が行われました。



「笥家住宅」母屋部

かけいけじゅうたくしゅおく

### 1. 笥家住宅主屋について



笥家について説明をする笥氏

はじめに、家主の笥氏からプロジェクターを使っ  
ての説明を受けました。

笥家住宅主屋は、明治前期に曳家したと伝えられ  
ている母屋部と、その東に接続して増築した小屋部  
の二棟からなり、今日では使われなくなった四角の  
ボルトが多用されていること、建物の床下に濃尾地  
震によってできた大きな地割れが残っていることな  
どが紹介されました。

小屋部は、普段はこども能楽教室の会場として、現在でも使用されています。壁に飾られている竹の障壁画を能楽師であるご尊父が買い取ったエピソードが語られ、参加者から関心が寄せられていました。

また、一級建築士である笥氏から見た、近年建築されている建物の特徴や古民家の魅力についてもお話しをされました。



竹が描かれた障壁画

その後は母屋部に移動しました。母屋部は「四つ建て（鳥居立て）」と呼ばれる工法により建てられており、外壁から半間、または一間入った位置の上部に上屋根を支える主柱を立て、この上屋柱を梁材でつなぐことで主要構造体とするこの形式は、当地域の民家の特徴を示すものであるとのことでした。また、縁側の外に広がる庭も眺めることができました。



「四つ建て」の説明を受ける参加者



笥家の庭

## 2. 下田文庫について

岐阜県にある朝日大学の米田准教授より下田文庫についての説明を受けました。

下田文庫は、能楽関連書籍の大変な収集家だった大阪シテ方観世流能楽師の下田益三氏よりご子息の雄三氏が引き継ぎ、雄三氏の死後、親交が深かった笥氏のご尊父にその一部が渡ったそうです。

笥家で保管しているのは、江戸時代初期の「光悦謡本」や大正時代に写したとされる「能面打略系」で、特に「能面打略系」は能面作成に必要な情報が記されており、図は筆で細部まで忠実に書き写されています。歴史を物語る本や絵に、参加者は興味深く見入っている様子でした。



下田文庫に見入る参加者の様子



### ～ITTUの感想～

開発が進むささしまライブ駅や名古屋駅から程近い場所に、登録文化財の住宅があることに大変驚きました。古くに造られた建物が補修を経ながら現在でも使用されていることは素晴らしく、地域として誇るべきことだと思います。昔の大工は今でいう学者並みに博学であったかもしれないというお話も納得できました。開発が進むささしまライブ駅とは対照的な歴史的な文化財がもっと知れ渡ると良いと思いました。また、あおなみ線マスターの会で、こういった沿線の魅力をもっと発見し、情報を広げて頂きたいと感じました。



### ～くーちゃんの感想～

笥家は、古くからあるかたちを残しながらも、現在も人が住めるように手入れをし、使われているからこそその魅力があると感じました。立派なお庭は、笥氏が出勤前などに手入れをしているそうです。自分ではなかなかいけない場所に行き、お話しを伺うことができた良い見学会でした。次の開催も楽しみにしています。